

## 弁護士日記

### ヒラメ裁判官を

#### 作っているのはだれか

美和 勇夫

「ヒラメ」というのは、写真のとおり海の底にいて、上方をキョロ・キョロ見まわしている魚である。

ここから、「ヒラメ裁判官」という造語が生まれた。

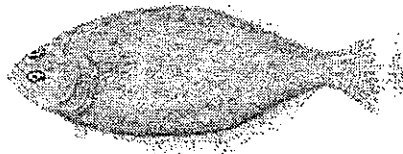
一審担当の地方裁判所において、上級審（高等裁判所）や上司（裁判長、裁判所所長）などの顔色ばかりをうかがう裁判官ばかりが多いので、そのようによばれている。

（気楽なもので、弁護士は、つぶれる自由もあるかわり一國一城のあるじだから、弁護士会長など、偉いとは「へ」とも思っていない。）

〇 〇 〇

もつとも弁護士会長は、いちおう弁護士の選挙で、毎年選ばれるが、地方裁判所の所長も、高等裁判所の長官も、最高裁もそうではない。

「ヒラメ」の裁判官達の選挙で、地方裁判所所長や高裁長官が選ばれ



ば、「上に行く」とする者」が下の動向をうかがうことになる。（本当はその方がいい）

去る十月十八日、最高裁判所の長官が、新任の一〇八名の裁判官を前に次のように訓示したということである。（要約）

「裁判所には、上の顔色ばかりうかがうヒラメ裁判官がいると言われる。

私は、そんな人はいないと思うし、そういう人は歓迎しない。

何物にもとられず自分で信念をつらぬいて下さい」

〇 〇 〇  
「よお言っわー」  
ちゅうことである。

最高裁判所を頂点とする、裁判所という巨大な「官僚、役人機構」が作られ、信念をつらぬく人物ははじめから裁判官にせず、十年ごとに再任をチェック、出世により任

地、報酬の差別が公然と行われていては、だれが上を気にせずやつておれるのか。

ワシだって、裁判官をやつとればしょうがない

から上手に「ヒラメ」をやつとるわいな。

どこの会社でも、上を気にしない「ヒラ」などいるはずがない。

〇 〇 〇  
（めったに私は、人をほめたりはしないが、……）

私と違って、まじめ実直、頭の低い、敬愛する某裁判官は、一生、ヒラのまま「停年」を迎えたではないか。

（裁判官の会議で、信念にもとつき、ものを言うという理由からだけである。）

地方の支部（岐阜地裁でいえば、岐阜が本庁、大垣、多治見、高山、御嵩などが支部裁判所になる。）には、本当に、

裁判をうける者の言い分をよく聞いて、頭も低い、

こんな人を最高裁判官に推せんしと思う人がよくいる。

しかし、ていねいすぎて仕事が遅かったり、信念行動をする人はどうしても出世からはずれる。

〇 〇 〇  
（<sup>（世）</sup>支部、<sup>（世）</sup>支部と、支部から支部へ、支部めぐり

支部の虫にも五分の魂』という詠み人知らずの名歌がある。

最高裁長官は、もつて（深く心に）銘ずべしである。

上を見て、「頂点」に昇りつめたおかたは、どこのどなたかということである。

（筆者は多治見市上野町在住）